

当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	無期限
運用方針	ビジネスを通じて社会的課題に積極的に取り組み、社会に貢献する企業の株式に投資します。個別企業調査を基本としたボトムアップ・アプローチを重視した銘柄選択を行います。
主要投資対象	国内の上場株式を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
分配方針	毎決算時(9月20日。休業日の場合は翌営業日)に、利子、配当収入および売買益などのうちから、基準価額水準等を勘案して、分配を行う方針です。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないこともあります。

朝日ライフ SRI 社会貢献ファンド 愛称〔あすのはね〕

第22期

(決算日 2022年9月20日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております「朝日ライフ SRI 社会貢献ファンド」は、2022年9月20日に第22期の決算を行いました。ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも、一層のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
東京都杉並区和泉一丁目22番19号

<お問い合わせ先>

ホームページ： <https://www.alamco.co.jp/>

フリーダイヤル：0120-283-104

〔受付時間〕 営業日の午前9時～午後5時

○本報告書の表記について

・原則として、数量、額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数で表記する場合があります。－印は、組入れ、異動などの該当がないことを示します。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			TOPIX(東証株価指数)		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込み分配金	期騰落率	[参考指数]	期騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
18期(2018年9月20日)	10,525	560	8.5	1,787.60	7.2	93.9	－	4,135
19期(2019年9月20日)	9,336	0	△11.3	1,616.23	△9.6	87.1	－	3,890
20期(2020年9月23日)	10,008	90	8.2	1,644.25	1.7	83.1	－	4,068
21期(2021年9月21日)	10,068	1,100	11.6	2,064.55	25.6	93.8	－	4,153
22期(2022年9月20日)	9,148	0	△9.1	1,947.27	△5.7	90.0	－	4,210

(注) 基準価額および分配金は1万口当たりの値です。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込みで計算しています。

(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

(注) 当ファンドでは運用目標とするベンチマークを設定していないため、参考指数としてTOPIX(東証株価指数)を掲載しています(以下同じです。)

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		TOPIX(東証株価指数)		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率		[参考指数]	騰落率		
(期首) 2021年9月21日	円	%		%	%	%
	10,068	－	2,064.55	－	93.8	－
9月末	9,918	△1.5	2,030.16	△1.7	93.8	－
10月末	9,761	△3.0	2,001.18	△3.1	93.6	－
11月末	9,422	△6.4	1,928.35	△6.6	96.6	－
12月末	9,668	△4.0	1,992.33	△3.5	96.4	－
2022年1月末	9,055	△10.1	1,895.93	△8.2	96.6	－
2月末	8,992	△10.7	1,886.93	△8.6	94.3	－
3月末	9,062	△10.0	1,946.40	△5.7	93.3	－
4月末	8,859	△12.0	1,899.62	△8.0	90.0	－
5月末	8,903	△11.6	1,912.67	△7.4	88.4	－
6月末	8,656	△14.0	1,870.82	△9.4	91.1	－
7月末	9,008	△10.5	1,940.31	△6.0	90.1	－
8月末	9,261	△8.0	1,963.16	△4.9	91.0	－
(期末) 2022年9月20日	9,148	△9.1	1,947.27	△5.7	90.0	－

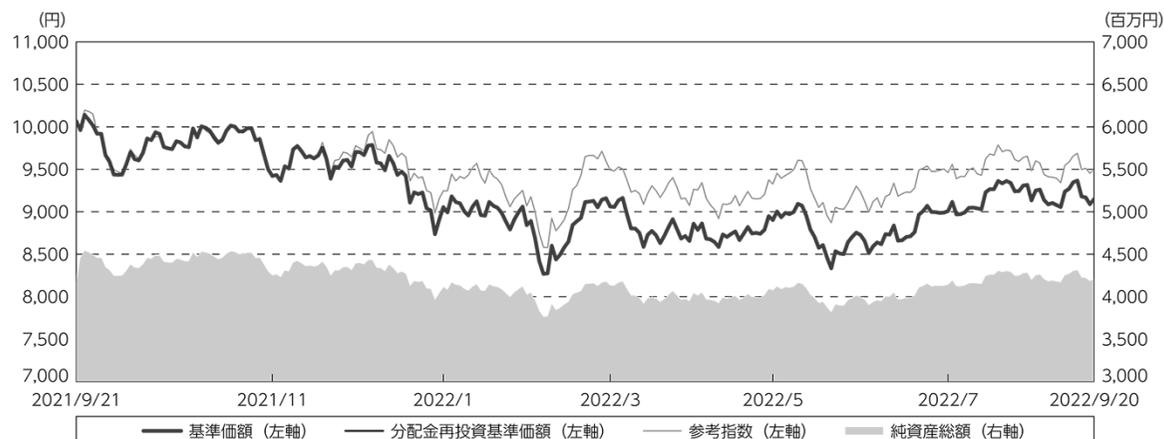
(注) 基準価額は1万口当たりの値です。

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比で計算しています。

(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

◎運用経過(2021年9月22日～2022年9月20日)

○当期中の基準価額等の推移



期 首 : 10,068円

期 末 : 9,148円 (既払分配金(税込み) : 0円)

騰落率 : △ 9.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

○基準価額の主な変動要因

期初から2022年3月にかけての前半期における下落の主な要因は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の停滞、インフレ抑制のための各国政策金利の引き上げ、資源価格の高騰等のコスト増による企業収益圧迫、ロシアのウクライナ侵攻に対する欧米等のロシアへの経済制裁強化、世界経済の減速等に対して懸念が高まったことが挙げられます。

一方、2022年4月から9月までの後半期では、国内の新型コロナウイルス新規感染者数の減少、経済活動の再開、入国制限緩和とインバウンド消費拡大、円安・ドル高進行による国内企業業績の上方修正、インフレのピークアウトによる米国金融引き締め緩和等への期待が高まったことが上昇要因に挙げられます。

○投資環境

当期の株式市場は、期初から2021年12月までは、新型コロナウイルスの感染増に伴う経済活動の停滞懸念が広がったことで、弱含みで推移しました。また2022年の年明けから3月にかけても、資源価格の高騰等のコスト増による企業収益圧迫懸念や、ロシア軍のウクライナ侵攻に対するリスク回避の売りが多く発生したことで、軟調な展開となりました。

4月以降については、新型コロナウイルス新規感染者数の減少、経済活動の再開、円安・ドル高進行による国内企業の上方修正、インフレのピークアウトと米国金融引き締め緩和等への期待を背景に底堅く推移しましたが、8月下旬以降は、パウエルFRB(米連邦準備理事会)議長が金融引き締め姿勢を明確にしたことで、軟調な展開となりました。

○当ファンドのポートフォリオ

期初から2022年3月までの前半期では、市場が弱含みで推移する中、業績面で下振れリスクが高まった銘柄の下落により、基準価額は軟調に推移しました。個別銘柄ではマキタ、オイシックス・ラ・大地、ソラスト等の株価下落がマイナスに寄与しましたが、富士電機、丸井グループ、プレミアグループ等の株価上昇がプラスに寄与しました。

後半期に入ってから株式市場が底堅く推移する中、好業績銘柄を中心とした株価上昇が基準価額を押し上げました。個別銘柄ではオイシックス・ラ・大地、ニトリホールディングス、芝浦電子等の株価下落がマイナスに寄与しましたが、プレミアグループ、TIS、オリンパス等の株価上昇がプラスに寄与しました。

当ファンドでは投資先の企業価値の向上は、中長期的な投資リターン拡大にとって最も重要な要素であると考え、持続的な成長が期待できる市場で、ステークホルダーを味方につけて競争優位を構築し、企業価値向上の観点から株主と経営のベクトルが一致しているサステナブルな企業への選別投資を行いました。その一方で、調査の結果、業界の魅力度や競争優位性が低下したため将来に向けて企業価値の拡大が難しくなったと判断した銘柄や、株価が上昇し割高な水準に達した銘柄を売却することで、ポートフォリオの魅力度を一層高めました。

この結果、当期においてオリンパス、アサヒホールディングス、JSR、芝浦電子、SCSK等を新たに組み入れました。一方、アイカ工業、コムシスホールディングス、プレステージ・インターナショナル、マキタ等について保有株式をすべて売却しました。

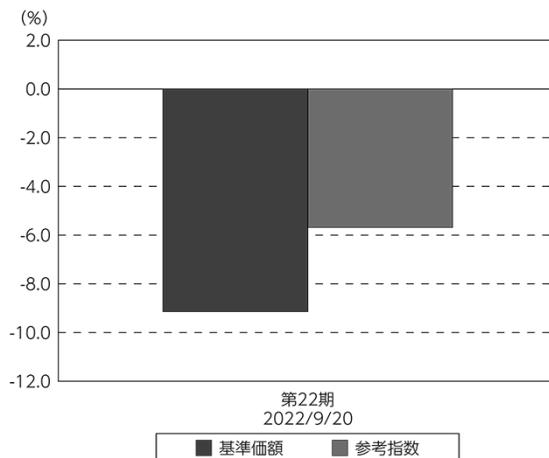
○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークはありません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数が5.7%下落したのに対し、基準価額は9.1%の下落となり、参考指数を3.5%下回る結果となりました。当期の株式市場では世界的にインフレと金利上昇への懸念が強まる中、それらの要因に対して相対的に影響を受けにくい割安株を選好する傾向が強まりました。そうした中、当ファンドのポートフォリオ特性として収益性や成長性の高い企業を多く保有し、割安株の保有比率が低いことや、企業業績が低迷した企業の株価下落等が、参考指数に対して劣後する要因となりました。

基準価額と参考指数の対比(期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込み(税込み)です。

○分配金

当期の分配金につきましては、収益分配方針に基づき、基準価額水準などを勘案して、見送らせていただきました。

なお、収益分配にあてず信託財産内に留保した利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第22期
	2021年9月22日～ 2022年9月20日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	807

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益および当期の収益以外は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計した額が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

当ファンドでは投資先の企業価値の向上は、中長期的な投資リターンの拡大にとって最も重要な要素であると考えます。企業価値の分析の際には、持続的な成長が期待できる市場で、ステークホルダーを味方につけて競争優位を構築しているか、企業価値向上に向けて株主と経営のベクトルが一致しているかといった観点から、投資先企業の選定を行います。

また企業価値分析においてサステナビリティを考慮する際には、企業価値に影響を与える重要なESG課題に焦点を当てます。企業活動に関係するESG要素は多岐に渡りますが、当該企業が行う事業(業種)や戦略にどのようなビジネス機会やリスクをもたらすかという観点から、課題を特定し分析を行います。

そしてビジネスを通じて社会的課題に積極的に取り組み、社会に貢献するサステナブルな企業を厳選し、特定のベンチマークや市場のトレンドへの追随は意識せず、安い株価で集中度を高めて買い、企業価値の成熟と株価の上昇を狙う運用を行うことで、高い投資成果の獲得を狙います。

○1万口当たりの費用明細

(2021年9月22日～2022年9月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 180	% 1.953	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(111)	(1.207)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(61)	(0.658)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(8)	(0.088)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	6	0.061	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際に支払う手数料です。
（ 株 式 ）	(6)	(0.061)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用です。
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	187	2.020	
期中の平均基準価額は、9,213円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます。)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

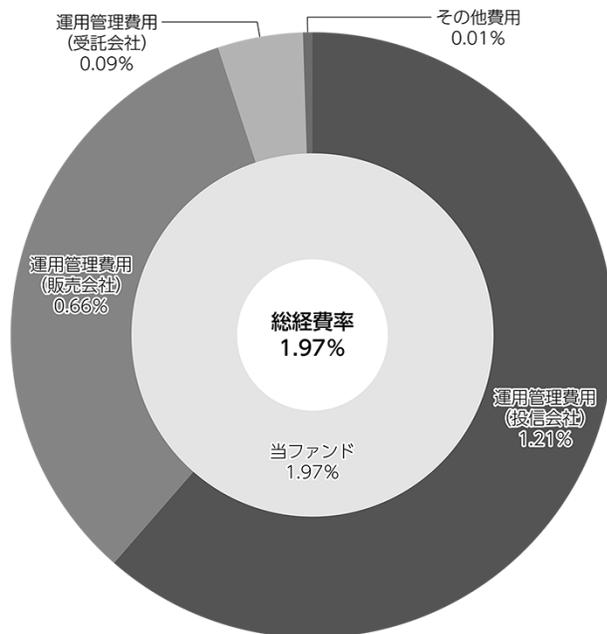
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます。)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.97%です。



(注) 当ファンドの費用は1万円当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2021年9月22日～2022年9月20日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		445	1,294,487	427	981,987
		(155)	()		

(注) 金額は受渡代金です。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれていません。

○株式売買比率

(2021年9月22日～2022年9月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	2,276,474千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	3,899,316千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.58

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2021年9月22日～2022年9月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2022年9月20日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (10.2%)			
ショーボンドホールディングス	15.8	13.5	84,915
コムシスホールディングス	37.5	—	—
大成建設	—	10.3	44,341
住友林業	57.8	50.5	118,725
積水ハウス	49.4	55.5	139,582
化学 (5.9%)			
J S R	—	22.2	66,933
アイカ工業	29	—	—
花王	10.9	—	—
太陽ホールディングス	11.8	26.6	70,144
ユニ・チャーム	16.3	18.3	86,302
ゴム製品 (3.6%)			
ブリヂストン	24	27	137,565
ガラス・土石製品 (3.0%)			
フジインコーポレーテッド	18	18.4	114,632
鉄鋼 (0.9%)			
東京製鐵	—	26	33,852
非鉄金属 (2.5%)			
アサヒホールディングス	—	44	93,456
金属製品 (4.2%)			
三和ホールディングス	104.5	117.4	158,724
機械 (3.9%)			
クボタ	50.6	44.1	95,278
ダイキン工業	2.8	2.2	53,009
マキタ	17.7	—	—
電気機器 (19.3%)			
富士電機	22.2	27.1	158,264
富士通	6.9	5.2	83,382
エレコム	39.1	43.9	69,888
アンリツ	39.9	51.6	84,211
アズビル	30.3	34	134,810
日本セラミック	37.6	19.7	51,850
芝浦電子	—	13.7	63,979
小糸製作所	11.2	18.5	86,302

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
輸送用機器 (4.0%)				
トヨタ自動車	14.8	73.4	150,359	
精密機器 (2.9%)				
オリンパス	—	36.8	109,461	
電気・ガス業 (3.6%)				
メタウォーター	38.9	67.4	135,406	
情報・通信業 (9.7%)				
ラクーンホールディングス	33.4	37.5	44,137	
T I S	46.8	34.9	142,915	
ポールトゥウィンホールディングス	33	—	—	
トレンドマイクロ	12.4	11.9	96,866	
S C S K	—	36.4	81,790	
卸売業 (6.6%)				
シップヘルスケアホールディングス	36.3	49.6	130,497	
豊田通商	21.6	24.3	119,920	
小売業 (7.9%)				
セリア	15.5	—	—	
オイシックス・ラ・大地	21.3	23.9	41,825	
コスモス薬品	2	—	—	
丸井グループ	71.3	67	168,103	
ニトリホールディングス	6.1	6.9	88,285	
保険業 (1.1%)				
S O M P Oホールディングス	—	7	42,770	
その他金融業 (4.7%)				
プレミアグループ	31.6	92.3	179,615	
サービス業 (6.0%)				
プレステージ・インターナショナル	121.9	—	—	
ソラスト	49.6	77.7	70,396	
メイテック	—	32.3	76,874	
ダイセキ	23.9	18.2	81,809	
合 計	株 数 ・ 金 額	1,213	1,387	3,791,183
	銘柄数 < 比率 >	38	39	< 90.0% >

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

○投資信託財産の構成

(2022年9月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 3,791,183	% 89.2
コール・ローン等、その他	460,027	10.8
投資信託財産総額	4,251,210	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年9月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	4,251,210,323
コール・ローン等	454,880,473
株式(評価額)	3,791,183,750
未収配当金	5,146,100
(B) 負債	40,606,918
未払解約金	641,435
未払信託報酬	39,852,243
未払利息	1,355
その他未払費用	111,885
(C) 純資産総額(A-B)	4,210,603,405
元本	4,602,898,338
次期繰越損益金	△ 392,294,933
(D) 受益権総口数	4,602,898,338口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,148円

(注) 期首元本額は4,125,687,704円、期中追加設定元本額は641,711,691円、期中一部解約元本額は164,501,057円です。

(注) 投資信託財産計算規則第55条の6第10号に規定する額は以下のとおりです。

元本の欠損(当期末)392,294,933円

○損益の状況 (2021年9月22日～2022年9月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	85,137,163
受取配当金	85,421,007
受取利息	8
その他収益金	112
支払利息	△ 283,964
(B) 有価証券売買損益	△404,704,010
売買益	294,818,426
売買損	△699,522,436
(C) 信託報酬等	△ 81,846,984
(D) 当期繰越損益金(A+B+C)	△401,413,831
(E) 前期繰越損益金	332,806
(F) 追加信託差損益金	8,786,092
(配当等相当額)	(368,054,579)
(売買損益相当額)	(△359,268,487)
(G) 計(D+E+F)	△392,294,933
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△392,294,933
追加信託差損益金	8,786,092
(配当等相当額)	(368,054,579)
(売買損益相当額)	(△359,268,487)
分配準備積立金	3,622,985
繰越損益金	△404,704,010

(注) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(3,290,179円)、費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(一円)、信託約款に規定する収益調整金(368,054,579円)および分配準備積立金(332,806円)より分配可能額は371,677,564円(10,000口当たり807円)ですが、当期は分配を行いませんでした。

《寄付先報告》

・第22期寄付先のご紹介

目論見書記載のとおり、第22期(決算日2022年9月20日)は信託報酬の中から総額4,180,716円(日々の信託財産の純資産総額に年0.1%の率を乗じて得た金額)を、委託会社名で次の7団体に寄付しました。

(五十音順)

名 称	各 団 体 の 活 動 概 要
アフターケア相談所 ゆずりは (社会福祉法人 子供の家) 安心と楽しいを一緒に育む https://www.acyuzuriha.com/	「アフターケア相談所ゆずりは」は、児童養護施設や里親のもとを巣立った人や、虐待や貧困等の理由から親や家族を頼れず孤立している人たちへの支援を行う相談所です。住まいや、仕事、病気、様々な困りごとの相談を受け、生活保護の申請の補助、病院や不動産屋への同行等も行っており、ひとりひとりの相談者に寄り添っていくことを大切にしています。個別の相談対応の他に、「ゆずりは」の場所を拠点に、気軽に集えるサロンや、働く場として「ゆずりは工房」でのジャムづくり、高卒認定資格取得のための無料学習会、みんなでごはんの会、子どもへの不適切な行為をやめたい親を対象とした「MY TREEペアレンツ・プログラム」なども実施しています。「自分なんか生まれてこなければよかった」「生きている価値がない」と苦しみを抱えているひとたちが、出会い、つながり、安心できる時間を積み重ねていくことで、自分の暮らしを楽しみ、大切にできる気持ちが芽生え育まれていくことを大切に活動しています。
認定特定非営利活動法人 キッズドア すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会の実現を目指しています https://kidsdoor.net/	認定NPO法人キッズドアは、2007年の設立以来「日本の子どもの貧困」に取り組んでいます。生まれてきた環境や災害によって、子どもたちの将来の夢や希望に不平等が生じる社会はおかしい、貧困などの困難な環境にある子どもたちにも、フェアなチャンスのある社会システムを作りたい、と思いを活動続けています。 今の日本は子どもの7人に1人(13.5%)が貧困状態にあります。親の収入が低いと、十分な教育を受けられず、進学・就職にも不利となり、その子どもたちもまた貧困の問題を抱えてしまいます。この「貧困の連鎖」を断ち切るために、東京都と宮城県を中心に無料の学習会を運営しています。さらに子どもたちが自由に過ごせる居場所を作り、食事を提供できる学習支援も行っています。2021年度は64拠点で居場所や学習会を運営し、1,872人のお子さんに通っていただきました。また本事業には925人のボランティアの方々にも関わっていただき活動することができました。いただいたご寄付は学習会運営等にさせていただきます。
社会福祉法人 子どもの虐待防止センター 子どもの虐待専門の 民間相談機関 https://www.ccap.or.jp/	社会福祉法人子どもの虐待防止センター(CCAP)は、主に家庭内で起こる子どもの虐待防止を目的に活動する民体の団体です(団体設立1991年、社会福祉法人認可1997年)。皆様のご支援により、昨年設立30年を迎えました。子育ての中で生じる不安や寂しさといった感情は、決して特別なものではありません。虐待をしてしまう親自身も子どもとの関係に悩み、どこにも相談できずに孤独を抱え、苦しんでいることもあります。CCAPでは設立時より子どもを虐待から守るためには家族への支援が重要であるとの認識の下、子育てに悩む親のための電話相談や母親グループ「MCG(母と子の関係を考える会)」、「CCAP版 親と子の関係を育てるペアレントプログラム®」、「アタッチメント形成のための心理療法プログラム」、里親・養親支援などの各事業に加え、医療との連携や家族の支援に係る幅広い専門職に研修機会を提供するなど支援者の育成・支援に取り組んでいます。

名 称	各 団 体 の 活 動 概 要
<p>認定特定非営利活動法人 自然環境復元協会</p> <p>自然環境の復元と、ヒトが心豊かに暮らせる地域社会の創造</p> <p>https://narec.or.jp/</p>	<p>多様な生き物と共に暮らす社会を目指し、「身近な自然環境を復元すること。」「自然体験を通じた豊かな感性と人間力溢れるヒトが育つ場を提供すること。」を使命に、日本国内にて主に3つの事業を行っています。</p> <p>◆ふるさと未来創造プロジェクト 多くの農村が過疎化などの問題を抱えています。都市と農村を結びつけ協働することで、農山漁村の生態系を豊かにすることや、地域の問題解決と活性化を目指しています。</p> <p>◆環境再生医制度 環境再生医の資格制度を運営しています。「自然環境」と「自然とヒトの関係」の再生を目指すSDGs視点の環境人材を、育成・支援しています。</p> <p>◆レンジャーズプロジェクト 若手のボランティア希望者が地域の環境保全団体へお手伝いに行く環境保全ボランティアです。ボランティア希望者が環境活動を始めるきっかけを創出し、高齢化や人手不足などで困っている環境保全団体の課題解決を目指します。</p>
<p>特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会 [愛称：聚(しゅう)]</p> <p>自然とともに生きる社会づくりの推進</p> <p>https://www.shu.or.jp/</p>	<p>持続可能な社会のために、人と自然の調和をめざす活動を行っているNPO団体です。「森を守る」、特に里山を通じて自然との関わりを取り戻し、そこで活動する「人を育てる」活動を行っています。そして、「森と人を繋ぐ」をテーマに、企業や行政と連携し、子どもたちの環境教育的活動や森づくり活動を推進・普及しています。</p> <p>◆「森を守る」・・・全国14か所において、定例的な整備・保全活動を進めています。里山をモデルに、人が自然に手を入れ、利用することでより豊かな自然環境を維持することができるような活動を目指しています。</p> <p>◆「人を育てる」・・・グリーンセイバー資格検定を軸に、セミナーや研修会等、環境活動を推進する人材の育成を行っています。</p> <p>◆「森と人を繋ぐ」・・・社会への普及啓発を目的に、観察会や自然体験活動の企画運営。行政と連携した緑地の保全活動や企業の社会貢献の提案や活動の受入れなども行っています。</p>
<p>認定特定非営利活動法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ</p> <p>ママが元気になれば子どももしあわせに！ シングルマザーが子どもといっしょに生き生き楽しく生きられるように、ママを勇気づけ、社会で活躍できる支援を行っています</p> <p>https://www.single-mama.com</p>	<p>日本のひとり親世帯の相対的貧困率は48.1%と非常に高く生活の困難は深刻です。しんぐるまざあず・ふぉーらむは、シングルマザーと子どもたちが生き生きと暮らせる社会をめざして活動しています。シングルマザーが抱える困りごとや子育ての悩みに応え、支援につなげる相談事業、スキルアップとエンパワメントで安定した就業を支援する事業、ひとり親の子育て費用を応援する子育て支援事業など様々な事業を自治体や企業と協働し取り組んでいます。</p> <p>特に2020年3月以降、コロナ禍により失業や休業を余儀なくされ困窮するひとり親の2,500世帯に、毎月お米などの食料を送る支援を続けてきました。非常時には困難が積み重なることが多いシングルマザーの家庭には、2022年以降も支援の継続が必要です。</p> <p>また、直接支援だけではなく、ひとり親家庭の生活状況についての調査や制度改善の呼びかけを通して、ひとり親を取り巻く社会状況の改善にも取り組んでいます。</p>
<p>特定非営利活動法人 モンキーマジック</p> <p>障害者クライミング普及活動を通じて、多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指しています</p> <p>https://www.monkeymagic.or.jp/</p>	<p>「見えない壁だって、越えられる。」をコンセプトに、国内で17年以上にわたり、障害のある児童生徒・大人を対象としたクライミングスクール、そして障害のある方もない方も共に楽しめる交流型クライミングイベントの定期的な企画運営、講演会や体験会を実施しています。</p> <p>クライミングは障害の有無に関係なく、同じ場所で同じルールで楽しめる特性があります。健常者と障害者が「助ける・助けられる」の関係ではなく、同じクライミング仲間として関わり、互いに壁を取り払い、理解しあうことで、多様性を認め合える価値ある機会となります。</p> <p>障害、年齢、性別、文化などの違いに関わりなく、それぞれの人が社会の一員として支え合う中で、安心して暮らし、一人一人が自分らしく生き、持てる力を発揮して元気に暮らすことのできる社会を目指しています。</p>

注：上記7団体は、第22期計算期間にかかる金額を寄付させていただいた団体であり、第23期計算期間以降については、上記団体に寄付を行うとは限りません。

・第21期寄付先に関する活動報告

第21期(決算日2021年9月21日)は次の6団体から寄付を行いました。

寄付先団体からの活動報告は以下のとおりです。

(五十音順)

名 称	各 団 体 か ら の 報 告
アフターケア相談所 ゆずりは (社会福祉法人 子供の家)	<p>コロナ禍が続く中、サロン、ゆずりは工房でのジャムづくり、高卒認定資格取得のための無料学習会は通常通り運営できました。個別相談は、新規の相談が相次ぎ、延べ相談件数は40,000件以上となりました。その中で、家庭内の虐待等に苦しむ人たちが、適切な相談機関に繋がっていない実態が見えました。また、数々の給付金等の制度はあるものの、精神の不安定、対人恐怖等から、制度への申請もままならない実態も明らかとなり、困難な状況にある人ほど、各手続きへの伴走支援が求められていることを強く感じました。さらに、家庭が裕福な状態であっても、親と同居している学生が、学校やアルバイト先、友人宅などのレスパイト先が絶たれたことで、従来から行われていた親からの支援や精神的虐待が加速し、家から逃げたいという相談も相次ぎました。</p> <p>第21期のご寄付により、公的な資金や給付金を活用できない状況の生活困窮状態にある人々への支援を迅速に行うことができました。今後も、法の狭間に取り残されてしまう人たちのサポートに尽力して参ります。</p>
認定特定非営利活動法人 キッズドア	<p>困窮世帯の高校生が抱える課題の一つが高校卒業後の進路選択です。高校卒業後の進路はその後の人生に大きく影響します。弊会が関わっている子どもたちは、大学、専門学校等への進学、就職等、多様な進路に進みます。進路決定に至るまでには多くの情報が必要となります。進路選択にあたっては、通常であれば卒業後何がしたいかが優先順位の上位にきますが、弊会に関わる子どもたちは、まず家庭の状況を鑑みて可能な進路選択をせざるを得ない状況にあります。またこれまでは、全ての進路について考えたり、お金のことを理解したり、奨学金の情報をまとめたようなサイトや冊子がありませんでした。弊会ではこの課題を解決するために『夢をかなえる進路Guide』を作成しました。今回ご支援いただいたご寄付は、本冊子の増刷、全国の高校や社会福祉協議会等への送付費用として使用させていただきました。弊会の子どもたちだけでなく全国でこういった情報が必要とする子どもたちへリーチすることが可能となりました。本当にありがとうございました。</p>
社会福祉法人 子どもの虐待防止センター	<p>今期のご支援は、子育てに悩む親のための電話相談等、当法人の活動の柱である相談事業の運営に活用させていただきました。ここ数年のコロナ禍の様々な制約もあり、子育てへの支援が求めにくくなったことなどもあり、一生懸命に子どもと向き合うからこそ辛さを抱え込み「このままではいけない」「いい親にならなければ」とひとりで悩む声が寄せられています。2021年度は2,800件を越える電話相談がありました。今期はこうした相談に対応するために相談員の養成講座を開催し、新しいボランティアを増員することもできました。</p> <p>皆様のご支援を通じて、社会が子どもと家族を温かく見守り、共に育むメッセージを発信することができますと考えます。</p> <p>温かいご支援に法人一同心より感謝を申し上げます。</p>
特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会 [愛称：聚(しゅう)]	<p>コロナ禍が続く中、一定の活動縮小を余儀なくされてきましたが、保全活動は概ね再開し、徐々に活発になってきた1年間でした。これまでの活動をいかに再開・継続させるかが大きな課題になりましたが、資格検定をはじめ、保全活動も継続することができました。</p> <p>資格検定においては、地方の人にとっても受験しやすいように検定会場を1箇所増やしました。2020年度よりも若干、受検者数を増やすことができました。今後、ネット受験や自宅での受験ができる方法を含め、さらに検定のありかたを検討しています。</p> <p>子ども向けの自然体験プログラム「子どもワクワクプロジェクト」では、過去にないほどの参加申込があり、コロナ対策を万全にしながら実施しました。コロナ禍でさまざまな活動が縮小される中で、自然と触れる機会へのニーズを感じました。</p> <p>現代社会の中で、人が自然とともに生きていくことを伝え、広める活動を、今度も推進していきたいと考えています。</p>

名 称	各 団 体 か ら の 報 告
認定特定非営利活動法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ	<p>第21期のご寄付も引き続き、相談業務に活用させていただきました。</p> <p>受付件数は、メール相談988件、電話相談872件でした。メールによる相談は2020年のピーク時に比べ今期は約40%減少したものの、電話による相談は横ばいで、コロナ禍前と比べ相談件数自体は増加したままの状態です。</p> <p>相談内容からは、長期化するコロナ禍で困難の内容が複雑化している状況が見えてきました。生活困窮から相談してくる相談者の気持ちを受容し孤立をやわらげつつ、例えば食料支援につなげる、あるいは地元の支援団体や社会福祉協議会などにつなげるなど、とりこぼすことのない対応に努めました。</p> <p>また今期からLINEでの相談も開始しました。ともだち登録はまだ70名程度ですが、登録者の多くは30歳代までの若年層の母親です。電話料金を払えずに通話できない状態の相談者との連絡手段としても有効でした。</p>
特定非営利活動法人 モンキーマジック	<p>第21期のご寄付は、弊会の障害者クライミング普及活動のノウハウを日本全国に共有し、クライミングを通じた新たな地域コミュニティ創造のため、日本各地の有志による自主運営クライミングサークルの定着、発展の支援に充てさせていただきました。</p> <p>2021年度は、新しい生活様式の中で感染対策を徹底し、全国14地域にて、交流型クライミングイベントの定着、発展、交流をサポートし、合計41回、395名(うち障害者180名)の方々に参加していただきました。</p> <p>コロナ禍から現在において、障害当事者の運動機会は減少したままとなっています。外出機会の少ない障害当事者にむけて、スポーツの選択肢を広げ、社会参加、健康増進、健康寿命の延伸に寄与し、多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指します。</p> <p>全国47都道府県での展開を目指して、今後も人々の可能性を大きく広げることを目的として活動に邁進いたします。</p>